

# 中国における日本語教育の現状 —日本語学習者に対する意識調査—

于 飛

## 0. はじめに

中国では、近年国策として英語教育を第一に推進しているので、学生たちの成績優秀者は、英語を学ぶという風潮が席捲している。中国全土から TOEFL の受験申し込みをするために、北京外国語大学の敷地内に長蛇の列をなして順番待ちをしていた中国人たちの殺気立った顔を忘れることが出来ない。こうした英語熱の中にあって、大学の日本語学科で日本語を専門にするのは、特殊な場合を除いては、英語を専門に学ぶチャンスに漏れた学生たちなのである。だから、どこか挫折感を惨ませている。1972年に日中国交が回復し、中国の大学に日本語学科が開設され始め、1985年から1990年にかけては、中国各地に日本語学科が増設され、日本語はブームとなったのであるが（続 1996）、今や完全に英語にその地位を奪われてしまったのである。

また、大学で語学が専門でない学生たちが必須科目として取らねばならない第一外国語も、現在では、ほとんどが英語である。つい10年ほど前の1990年までは、日本語を第一外国語で学ぶ学生が、4割を越えていたのに（椎名 1997）、今は見る影もない。

日本語を第一外国語にしなくなった理由は、中学・高校での日本語教育の衰退と連動している。現在、中国の大学で第一外国語として学べるのは、中学・高校で学んだ外国語に決められている。その中学・高校がこぞって日本語コースを廃止して、英語コースを新設したり増設したりして英語教

育に力を入れるから、当然の成り行きである。

たとえば、北京市では、全日制の中学・高校で次々に日本語コースを廃止していったので、1995年には、日本語コースが置いてある全日制の中学・高校は、ただ一校一（月壇中学・高校）のみになってしまったのである。英語学習熱が、いかに急上昇しているかを察することが出来よう（松嶋 1996）。

では、日本語は不要科目になってしまったのか。英語に大きく水をあけられつつも、大学の日本語学科は存在し続けているし、また、第一外国語としての地位こそ英語に譲ってしまったけれど、第二外国語として、日本語は根強い人気を博している（木山・篠崎 1995）。第二外国語というのは、他に専門分野を持つ学生が、必須の第一外国語を修得した後、選択科目として学習する科目である。授業は、日本語の基礎から始められる。センターの「日本語研修コース」でフレッシュアップしている現職の日本語教師たちは、ほとんど勤務先大学で第二外国語としての日本語を教えている。

では、中国での日本語教育の将来はどうなるのか。現在よりさらに需要が低下していくのか。それとも、現状維持で進んでいくのか。かつての日本語ブームのような躍進的な時期が訪れることはあるまいが、また凋落の一途をたどることもあるまい。というのは、一つは国立国語研究所の調査で明らかになっているように、中国人には基本的に日本語を学びたいという欲求があること、二つは、隣国にあるという地理的状況に恵まれているため、今後ますます日中交流が盛んになり日本語習得の必要性があると推測されることである（研究代表者水谷修、新プロ「日本語」総括班、研究班1編 1999）。おそらく、中国での日本語教育の需要は、当分の間現状維持の状態でも歴史の歯車は回っていくであろう。

しかし、中国における日本語の地位はどんなものか。日本語教育を受けた中国人学生・院生の実力はどうか。日本語教育の使命とは何なのか。中国で日本語教育を普及させるためには何が必要なのか。今回、筆者はこのような質問に基づいて、北京と内モンゴルの大学と日本語学校の在学生の意識を調査するために、アンケートを実施する。

## 1 アンケート調査表

性別：

年齢：

出身地：

質問の答えは並べている選択項目の中を選んで、○をしてください<答えの後に（ ）がある場合、（ ）の中に文字を記入してください>。

1. 日本語の学習歴はどのぐらいですか？

- ① 一ヶ月未満
- ② 半年未満
- ③ 一年未満
- ④ 一年以上

2. 今の職業は？

- ① 学生
- ② 会社員
- ③ 無職者
- ④ その他（ ）

3. 日本人が好きですか、嫌いですか？理由は（ ）

- ① 好き
- ② 嫌い

4. 日本語を勉強したい理由は？

- ① 日本に留学するために
- ② 日本の会社に勤めるために
- ③ 興味のために
- ④ 理由をあまり考えない
- ⑤ その他（ ）

5. 日本語学校のことをどのようにして知りましたか？

- ① 新聞や雑誌から
- ② 友人や家族から
- ③ インターネットから
- ④ その他 ( )

6. 今までの日本語の学習をどう思いますか？

- ① 面白かった
- ② まあまあ
- ③ あまり面白くなかった
- ④ とてもつまらなかった

7. 中国で日本人に会ったことがありますか？

- ① ある
- ② ない

8. 日本人に対する印象はいかがですか？（7番の質問の答え①を選んだ方は記入して下さい）

( )

9. 日本に対する一番深いイメージは？

- ① 武士道精神
- ② 礼儀の国
- ③ 経済大国
- ④ 島国
- ⑤ その他 ( )

10. もしチャンスがあれば、日本に留学に行きたいですか？

- ① 行きたい
- ② 行きたくない

11. 行きたい理由は？（10番の質問の答え①を選んだ方は記入してください）

( )

12. 行きたくない理由は？（10 番の質問の答え②を選んだ方は記入してください）

（ ）

13. 中国人の立場から、日本に一番学ぶものはなんですか？

- ① 科学技術
- ② サービス業と公共秩序の教養
- ③ 負けない精神
- ④ 集団意識
- ⑤ その他（ ）

14. 中国における日本語教育に関する問題点は何だと思いますか？

- ① 日本人との交流機会が少ない
- ② ネイティブの教師が少ない
- ③ 授業時間が不十分である
- ④ 生徒の興味が低い
- ⑤ その他（ ）

15. 将来の中国の日本語教育にとって重要だと思われることは何ですか？

- ① 日本に関する様々な情報
- ② 日本語教育に対する興味を公に広めること
- ③ 日本文化の良い面を取り入れる
- ⑤ 日本人との交流を増やす
- ⑥ その他（ ）

「的」はもと「底」と書かれている。そのことを時代を追ってみたい。

## 2 結果の予想

1. 日本語の学習歴はどのぐらいですか？

今回インタビューの対象は在学生だから、学習歴はほとんど半年ぐらいと思う。

2. 今の職業は？

今回インタビューの対象は全員学生である。

3. 日本が好きですか、嫌いですか？理由は（ ）

今回インタビューの対象の中に、日本語学校の生徒は日本に行くための学習だから、みんな「好き」を選ぶと思う。大学生はただ選択科目の学習として、あと日中戦争の歴史の問題の影響が深いから、「嫌い」を選ぶ人は多分多いと思う。

4. 日本語を勉強したい理由は？

日本語学校の学生の日本語を勉強したい理由は大体みんな日本に留学や仕事に行くためだと予想する。大学生は大体選択科目の単位を取るためか興味のための理由が多いと思う。

5. 日本語学校のことをどのようにして知りましたか？

今の時代はインターネット発達の時代だから、みんなはほとんどインターネットから日本語学校のことを調べると予想する。

6. 今までの日本語の学習をどう思いますか？

この質問は人によって違う。人々の学習の目的や方法は違うから、日本語学校の生徒たちはほかの人よりは日本語の学習に興味を持っていると予想される。

7. 中国で日本人に会ったことがありますか？

今の中国は昔と違って、80年代の改革開放から中国に在住の外国人はだんだん増えてきた。特に、2008年に北京でオリンピックを開催するので、多分みんな中国で日本人に会ったことがあると予想する。

8. 日本人に対する印象はいかがですか？（7番の答え①を選んだ方は記入して下さい）

この問題も人によって違う。いずれの国でもいい人もいるし、悪い人もいる。もしいい人にあったら、必ずいいイメージを残っている。だから、この質問の結果は予想しかたい。ただ普通テレビや新聞雑誌などのメディアから知っている日本人は礼儀正しく、真面目だと思う。しかし、日中戦争の影響で悪いイメージを持っている人も必ず存在しているものと予想される。

## 9. 日本に対する一番深いイメージは？

日本は世界の経済大国であるから、多分3番の答えを選ぶ人が多いと思う。あと、近年の日本の映画やアニメやドラマの流行で、日本の特の武士道精神も深く人の心にしみ込む。だから、1番を選ぶ人も少なくないと予想される。

## 10. もしチャンスがあれば、日本に留学に行きたいですか？

日本語学校の学生は全員日本に留学に行きたいという答えを予想される。

## 11. 行きたい理由は？（10番の質問の答え①を選んだ方は記入してください）

行きたい理由は大体日本語を学習するため、あとは就職か技術を学びたい人も多いと予想される。

## 12. 行きたくない理由は？（10番の質問の答え②を選んだ方は記入してください）

今、北京の大学生はほとんどアメリカやヨーロッパに行きたいという答えを予想される。日本に行きたくない理由としては、日中戦争と近年の反日の情緒の影響があると予想される。

## 13. 中国人の立場から、日本に一番学ぶものはなんですか？

日本は発達国家として、一番学ぶものは科学技術だと予想される。次は、日本は礼儀の邦として、サービス業と公共秩序の教養を選ぶ人も少ない。

## 14. 中国における日本語教育に関する問題点は何だと思いますか？

中国だけじゃなくて、世界のいずれの国の外国語教育にとって、一番大きい問題はその言語を使うチャンスが少ないことだと思われる。すなわち、外国人との交流機会が少ない。あとは始めに書いた通りで、中国では近年国策として英語教育を第一に推進しているので、学生たちの成績優秀者は、英語を学ぶという風潮が席捲している。中学・高校での日本語教育を衰退している。それはネイティブの教師が少ない結果をもたらす。

15. 将来の中国の日本語教育にとって重要だと思われることは何ですか？

将来の中国の日本語教育にとって重要なことは日本語教育に対する興味を公に広めることだと予想される。あとは、日本人との交流を増やすこともとても大切だと思う。

### 3 結果の考察

1. 日本語の学習歴はどのぐらいですか？

答え	①	②	③	④
人数	29人	0人	26人	55人

今回アンケートの対象の中に、日本語の学習歴は一ヶ月未満の人は 29 人 (26.4%) で、一年未満の人は 26 人 (23.6%) で、一年以上の人は 55 人 (50%) である

2. 今の職業は？

答え	①	②	③	④
人数	110人	0人	0人	0人

今回アンケートの対象は大学と日本語学校の在校生で、全員学生である。

3. 日本が好きですか、嫌いですか？理由は ( )

答え	①	②
人数	67人	32人

今回アンケートの対象の中に、67 人 (60.9%) の人は日本が好きで、32 人 (29.1%) の人は日本が嫌い。残りの 11 人は日本のことをよく分からないから、無回答であった。



好きな理由	人数
礼儀正しい	14人
真面目	11人
優しい	8人
ルールを守る	2人
勤勉	2人
民族意識が強い	1人
時間感覚が強い	1人
面白い	1人
伝統を重視	1人
日本からたくさんのことを学べる	1人
日本文化が好き	1人
頭がよくて、生活や飲食の習慣は科学的だ	1人
理由なし	23人

日本が好きな理由の中に、日本人の礼儀が正しいと思う人が一番多くて、14人がいる。次は日本人の仕事ややることに対する態度が真面目だと思う人も多くて、11人がいる。三番目は日本人が優しいと思った人は8人がいる。日本人はルールを守ることと勤勉だと思った人は2人ずつがいる。それ以外のばらつきの見方もある。

きらいな理由	人数
日中戦争の歴史問題	12人
気が狂った	1人
けち	1人
一本調子	1人
虚偽	1人
理由なし	16人

日本人が嫌いな理由の中に、日中戦争の歴史問題の影響を受けた人が一番多い。「理由なし」と書いた人は16人もいることを深く考える必要がある。

## 4. 日本語を勉強したい理由は？

答え	①	②	③	④	⑤
人数	15人	20人	33人	32人	10人

結果の統計から見て、興味のために日本語を勉強した人が一番多い。

その他	人数
日本のアニメが好き	4人
日本語は学びやすい（漢字があるから）	2人
通訳になりたい	1人
日本のことを知りたい	1人
理由なし	2人

日本はアニメの国である。日本のアニメは世界中に広く行われている。今、中国には日本のアニメを見るために、日本語を勉強している人も多い。

## 5. 日本語学校のことをどのようにして知りましたか？

答え	①	②	③	④
人数	21人	14人	56人	19人

今やインターネットは社会の隅々にまで浸透しつつあり、インターネットが21世紀の情報伝達の主役になることは、疑う余地もない。今回アンケートの対象のうちに、半分以上の人はインターネットで日本語学校の情報を知っている。

その他	人数
大学から	10人
先生から	7人
日本語学校でバイトした	1人
うちの学校に来た	1人

ほかの手段はほとんど大学か先生の方から情報を収集する。

6. 今までの日本語の学習をどう思いますか？

答え	①	②	③	④
人数	46人	40人	16人	8人

今回アンケートの対象は日本語の学習者だから、面白かったと思う人が一番多い。しかし、とてもつまらなかったと思う人もいる。

7. 中国で日本人に会ったことがありますか？

答え	①	②
人数	85人	25人

中国の80年代の改革開放につれて、外国人の在住人数はだんだん増えている。中国で日本人にあつたことがある人は85人(77.3%)がいる。

8. 日本人に対する印象はいかがですか？(7番の答え①を選んだ方は記入して下さい)

イメージ	人数
礼儀正しい	28人
真面目	21人
普通	8人
優しい	7人
印象がよくない	6人
曖昧な態度	3人
冷たい	2人
一本調子である	1人
好奇心が強い	1人
顔は中国人と似る	1人
面倒	1人
活発	1人
無回答	5人

中国人にとって、日本人の深い「イメージは礼儀正しい」と「真面目」で、別々に 28 人と 21 人がいる。次の順序は「普通」と思った人は 8 人で、「優しい」と思った人は 7 人がいる。それ以外のばらつきの見方もある。例えば、「顔は中国人と似る」の面白い考え方を持っている人もいるし、あとは日本人に対して、「曖昧、面倒、一本調子、冷たいなど」のようなよくない印象を持っている人も少なくない。無回答のは 5 人がいる。

### 9. 日本に対する一番深いイメージは？

答え	①	②	③	④	⑤
人数	32 人	33 人	25 人	11 人	9 人

日本に対する一番深いイメージは「礼儀の国」と思った人は 33 人 (30%) で、次は「武士道精神」と思った人は 32 人 (29.1%) で、「経済大国」と思った人は 25 人 (22.7%) で、「島国」と思った人は 11 人 (10%) である。

その他	人数
日中戦争	6 人
アニメの大国	1 人
民族意識	1 人
実用的である	1 人

その他の中に、日中戦争のイメージが深い人が一番多い。

### 10. もしチャンスがあれば、日本に留学に行きたいですか？

答え	①	②
人数	83 人	27 人

今回のアンケートの対象の中に、日本に留学に行きたい人は 83 人 (75.5%) で、行きたくない人は 27 人 (24.5%) がいる。

11. 行きたい理由は？（10 番の質問の答え①を選んだ方は記入してください）

行きたい理由	人数
日本語を高める	43 人
自分の目で日本を見たい	22 人
経済、科学技術を学び	13 人
旅行に行く	5 人

今回のアンケートの対象は全員学生だから、日本語を学習するための理由が一番多い。あとは、今まで日本に対する理解は全部新聞雑誌やテレビからだけで、自分の目で日本を見たい人が多いと考えられる。

12. 行きたくない理由は？（10 番の質問の答え②を選んだ方は記入してください）

行きたくない理由	人数
日本の生活は好きじゃない	8 人
アメリカ、ヨーロッパに行きたい	7 人
外国に行きたくない	5 人
日中戦争で日本がきらい	5 人
中国文化と似ている	1 人

日本に行きたくない理由の中に、一番多い理由は日本の生活や生活習慣が好きじゃないことである。次はアメリカ、ヨーロッパに行きたいから。

13. 中国人の立場から、日本に一番学ぶものはなんですか？

答え	①	②	③	④	⑤
人数	41 人	38 人	11 人	18 人	2 人

中国人の立場から、日本は科学技術の先進国と経済の大国として、一番学ばれるものは「科学技術」であることと思った人は 41 人 (37.3%) がいる。次、日本は礼儀の邦として、「サービス業と公衆秩序の教養」を学ばなければならないと思った人は 38 人 (34.5%) がいる。三番目は「集団意識」

だと思った人は18人(16.4%)がいる。四番目は「負けない精神」だと思った人は11人(10%)がいる。

その他	人数
日本のことが分からないから、答えられない	2人

二人は日本のことが分からないから、無回答であった。

14. 中国における日本語教育に関する問題点は何だと思いますか？

答え	①	②	③	④	⑤
人数	69人	16人	8人	11人	6人

中国における日本語教育に関する一番大きい問題点は日本人との交流の機会が少ない。学校で日本語を勉強して、使うチャンスがないと思う人は62.7%を占める。もう一つの大きい問題はネイティブの教師が少ない。

その他	人数
考えたことがない	6人

15. 将来の中国の日本語教育にとって重要だと思われることは何ですか？

答え	①	②	③	④	⑤
人数	30人	12人	35人	30人	3人

将来の中国の日本語教育にとって重要だと思われることは日本文化の良い面を取り入れること、日本に関する様々な情報、日本人との交流を増やすことの三つの意見が多い。

その他	人数
歴史の問題を正視すること	1人
考えたことがない	2人

その他は歴史の問題を正視すると思う人もいる。

## 4 予想と結果の比較

### 1. 日本語の学習歴はどのぐらいですか？

予想とちょっと違って、今回インタビュー対象の中に日本語の学習歴は一年以上の人が一番多い。次は一ヶ月未満の人である。半年未満の人はいない（質問項目 1 参照）。

### 2. 今の職業は？

予想の通りで、今回インタビュー対象は大学生と日本語学校の在校生である。次、私は中国の大学における日本語教育及び民間の日本語学校に対して、もうすこし研究したい。

#### 2.1 中国の大学における日本語教育

新中国が成立後、北京大学、対外貿易大学、吉林大学、上海外国語大学において、相次いで日本語学科が設置された。新中国の発展と共に、中国における日本語教育も大きな発展を遂げ、特にここ十年の発展が速く、いまや英語に次ぐ第二外国語となっている。

20世紀90年代以来、中国日語教学研究会と日本国際交流基金は協力して、1993、1998、2003年度の三回にわたって中国日本語教育機関調査を行った。調査結果によると、中国全土にある2400校程度の大学において、日本語教育機関として日本語学科を設置した大学は93年までで80校、98年までで120校であった。この120校は以下の通りである（中国日語教学研究会編1999）。

北京大学	清华大学	中国人民大学	浙江大学
复旦大学	南京大学	华中科技大学	武汉大学
西安交通大学	吉林大学	上海交通大学	中山大学
四川大学	山东大学	中国科学技术大学	哈尔滨工业大学
东南大学	中南大学	天津大学	同济大学
华南理工大学	南开大学	北京航空航天大学	东北大学
厦门大学	中国矿业大学	北京师范大学	上海第二医科大学

大连理工大学	北京科技大学	重庆大学	中国农业大学
武汉理工大学	郑州大学	西北工业大学	苏州大学
华东理工大学	兰州大学	华东师范大学	中国地质大学
南京理工大学	石油大学	上海大学	湖南大学
北京邮电大学	北京理工大学	扬州大学	西南交通大学
电子科技大学	南京师范大学	南京农业大学	南京航空航天大学
西北大学	东北师范大学	南昌大学	暨南大学
西安电子科技大学	北京工业大学	华中师范大学	华中农业大学
中国医科大学	首都医科大学	西北农林科技大学	北方交通大学
青岛大学	河海大学	福州大学	江苏大学
湖南师范大学	广东工业大学	广西大学	云南大学
合肥工业大学	华南师范大学	中南财经政法大学	河北大学
南京林业大学	河北师范大学	太原理工大学	山东农业大学
南京工业大学	昆明理工大学	陕西师范大学	福建师范大学
青岛海洋大学	贵州大学	华南农业大学	燕山大学
山东科技大学	湘潭大学	北京林业大学	山东师范大学
北京化工大学	西南师范大学	成都理工大学	山西大学
河北工业大学	长安大学	河南大学	福建农林大学
安徽大学	上海外国语大学	北京外国语大学	西安交通大学
浙江工业大学	中国海洋大学	中国协和医科大学	中国药科大学
中国矿业大学	南京农业大学	山西财经大学	郑州大学
中央民族大学	深圳大学	成都大学	华南师范大学
湖南大学	湖南师范大学	安徽师范大学	福建农林大学

ところが、2003年には250校と98年度の2倍以上にまで日本語学科の数が増えてき、また、調査による正確の数字ではないが、最近の情報によると、日本語教育機関として日本語学科を設置した大学は今年までで358大学にも昇り、教員数は3000人、学生数は17万人を超えていると言われている（国際交流基金日本語国際センター編 2002）。そして、更に高いレベルでの日本語教育の発展もまた速いものであり、今の中国では大学院修



士課程を設置した大学は26校と言われて、國務院学位委員会の審査にパスして、総合大学では北京大学、吉林大学、外国語大学では上海外国語大学、北京外国語大学、師範大学では東北師範大学において大学院博士課程が設置されている。

## 2.2 中国における日本語教育活動の概況—民間の日本語学校

現在、北京市内にある日本語学校、あるいは「日語班」（日本語教室）の数を把握することは難しいが、かなりの数が存在していることは確かで、99年以降は台湾や日本の資本による学校も開設されている。北京で民間経営の学校を開設する場合は大学・高校内の「培训班」とは違いかなり複雑な手続きが必要で時間もかかる。また、外国人教師を雇用するには就労ビザの発給を申請しなければならないが、正式の認可を受け、正式の手続きを経て日本人教師を雇っている学校はそう多くはないと思われる。今、北京の日本語学校は大体二つの種類に分けている。

### ① 外資による日本語学校

一つは台湾を拠点としてチェーン展開している日本語学校で、北京市政府への登録も済ませている正規の日本語学校である。資本が豊かであるため立地条件のよいビルに、充実した教室設備を確保し、独自のカリキュラムとテキストを使用しており、また、初級クラスに関しては日本語教育の知識や経験がなくても教えられるよう教師トレーニングを行い、教え方を統一している。学校の知名度とロケーションから日系企業の現地スタッフへの日本語教育の受け入れ先として選ばれることも多い。また「多元主題班」という様々な角度から日本を紹介するクラスも設け、趣味的動機で日本語を始めた学習者の「もっと日本を知りたい」という要望に応えている（国際交流基金日本語国際センター編 2002）。

もう一つは「留学斡旋業者」の運営する学校である。ここも正式の認可を得ており、日中間の留学を斡旋する一方で、全日制の日本語学校を運営している。日本からの語学留学生と日本語学習者が同じ施設内で学び、寮生活を送っている。

留学の目的は学位取得が主で、その大半は中高校で日本語を学習してきた者である。中国ではここ数年IT化が進むにつれて英語教育が特に重視される傾向にあり、そのため元々少なかった日本語で受験できる大学が減る一方であるため中国での進学を諦めて日本への留学を希望しているケースがほとんどである。そのような学習者を受け入れるにあたり、カリキュラムはもちろん日本語習得が主であるが、その他に数学・英語・コンピュータ・日本概況など大学、専門学校入学に必要なものが盛り込まれ、その他に日本での生活習慣にとまどわないための日本事情のクラス（例えばごみの出し方）などもある。こうした学校では日本の大学、日本語学校の現地受験のほか、成績優秀者については学校（日本の本社職員）が保証人となり受験用短期ビザを取得し、日本での受験を可能にしている。

## ② 個人経営の日本語学校

個人経営による日本語学校はまさに玉石混交といった様相で、経営者の方針次第でそのレベルには大きな開きがある。カリキュラムがきちんと立てられていなかったり、大人数クラスでしかもレベルがまちまちだったり、教師に日本語教育の知識や経験がなかったりと様々な問題を抱える学校もある。しかし、このような学校ばかりではなく、中国には、小資本であるがゆえに、学習者のニーズに細かく対応し、クラス運営や教師のレベルの管理をすることである。

## 3. 日本が好きですか、嫌いですか？理由は（ ）

予想の通りで、日本語学校の学生は全員「好き」を選んで、大学生の半分以上は「嫌い」を選んだ。今回インタビュー対象の中に、大学生と日本語学校生の比例は大体半分対半分だ。私の予想は「好き」と「嫌い」を選ぶ人も大体半分対半分だが、結果の統計から見て、無回答の11人を除いて、67.7%の人は「好き」を選んだ。やはり調べられた人の中に「日本が好きな人」が多い。好きな理由はほとんど日本人の礼儀が正しく、真面目である。嫌いな理由は予想の通りで、日中戦争の歴史問題である。次、私は日本の礼儀と歴史認識のことについて、詳しく解釈したい。

### 3.1 日本に対する一番深いイメージは礼儀正しさ

一つの国の国民の素質と教養は、人と人の付き合いからはっきりと見ることができ、私達中国人は日本にきて、まことに感慨深く、敬服して、その結果、中国のサービス業と公共秩序に憤りを感じる。中国のデパートの店員は、中国の女性の強さと弱さの試金石である。「お嬢さん、すみません！」とよべば、おだやかな表情で迎えてくれるが、「あんた、もって来てくれ！」と言いでますれば、かならず冷淡にあしらわれ、続いてわけのわからぬお叱りを受けるか、知らぬ顔をして相手にしてもらえない。交通事情を見てみよう。本来は一列に並んで、車が停留所に来るのを待つという整然とした状態を、当然である。社会主義精神文明と仰々しく言っているものの、実際にしていることは無礼きわまることばかりで、礼儀の国の中国はこのようであってはならない。中国人がはじめて日本に来て一番わずらわしいのは、日本人の多方面にわたってのエチケットである（実際には、こうした礼儀の多くは外国から入ってきたもので、中国がそのルーツであるが、そのルーツの国では受継ぐがれていない）。

デパートに入ると、店員が出迎えて言う。「いらっしゃいませ」。これは陳列台の前に来ると、さらにひどくなり、はっきりなしに「いらっしゃいませ」をよびかける。この「いらっしゃいませ。ありがとうございます」のシーンは、私たちのような中国人はまことに受けとめがたいものがある。日本人にとっては、過剰の挨拶語は商売場に必要がある。もう1つは挨拶が人と人の関係の潤滑油である。

### 3.2 日中間における矛盾の主な理由は歴史認識問題

歴史認識問題とは、ある歴史上の事象についての認識が一致しないことから引き起こされる諸問題のことである。たとえば日本国内などで国民的争点となるだけにとどまらず、しばしば、国家間の争い（文化摩擦や国際問題）の様相を見せる。一例として挙げられるのは、靖国神社参拝問題・南京大虐殺論争などに見られるような太平洋戦争における日本についての歴史認識や、韓国併合・強制連行論争・従軍慰安婦論争などに見られるよ

うな南北朝鮮への日本による植民地統治についての歴史認識などである。これらに関する歴史認識の食い違いは、太平洋戦争において日本と中国が敵対国であったことや、南北朝鮮が一時期日本の植民地であったことなどが要因となっている。そのため、国家間でしばしば食い違った歴史認識を見せるだけでなく、日本国内やそれぞれの国内でも歴史認識の食い違いがしばしば政治的争点となっている。たとえば、日本は、戦勝国によって開かれた戦犯法廷で多数の指導者が処刑あるいは刑に服し、戦後賠償も当事国間での条約、協約等で国際法上の責務を既に履行したとの立場を取っており、侵略した地域や植民地化した国に対しても談話等の形で謝罪の文言を述べており、日本国民の間でもこれらを正式な謝罪とする見方が少なくない。これに対して、韓国・中国では、国民感情としてまだ日本から十分な謝罪を受けていないと考える人が多い。そのため、国家間に限定しても、日本と中韓との間には歴史認識の差が露呈することが多い。

以上のように、歴史認識は個人の歴史観や国家の利益に左右されるためその解釈は千差万別である。一つの歴史的事象に対して万人共通の明確な解釈を求めるのは極めて困難であり、議論すべき点が山積していると言える。

今回のアンケートの結果の統計から見ると、日本人が嫌いな理由の中に、日中戦争の歴史問題の影響を受けた人が一番多い。周知のとおり、この前のアジア杯サッカー試合の反日事件およびそのあとの日本大使館攻撃事件などというのは、今の大部分の中国人の思想のあり方を反映したものといえよう。これは前の例のような歴史認識に左右された結果で、いっそう日中矛盾の主な理由であると思う。

#### 4. 日本語を勉強したい理由は？

予想と全然違って、日本語に興味があるという人が一番多く、次は理由をあまり考えない人も多い。「その他」のところでは、日本のアニメが好きであるという理由が一番多い。実は、最初筆者もこの理由で日本語の勉強を始めた。「中国の日本語教育を普及するために、何か必要か？」筆者はこ

の問題について解釈してみたい。

#### 4.1 中国の日本語教育のために

中国の学生・院生・日本語教師に接していると、自己主張の強さにたじたじとなる。自分の考えこそが正しいと信じ、相手の言うことに耳を傾けようとはしない。だから、彼らに異なる観点からする別の考え方を示唆しても、すぐに受け入れられることはまずない。さらに、自分の都合だけを盛んに言い立ててくる。自己主張を良しとする文化に育っているからである。

日本人は、自己主張が苦手である。自己主張をする人を見ると、見苦しいと思ったりする文化に育っている。だから、中国人と日本人は、互いに苦手意識をもちやすい。文化摩擦が起こっているのである。日本語教育は、こうした文化摩擦を解きほぐしていく役割を担っていよう。単に日本語を言語的な観点からのみ教えるのではなく、背景にある日本文化を解説し、歩み寄りの土壌を作っていくこと、これが日本語教育に課せられた使命の一つであろう。

さらに、中国では、日本語教育普及のために早急になされねばならないことがある。それは、日本語をイメージアップさせる努力である。日本語のイメージが北京ではかなり悪い。北京では、日本語は「侵略者の言葉」というイメージを持っている。最近の中国政府は、松嶋みどりによると、国策の一つとして「愛国主義教育」に力点を置き、日本の侵略の歴史を意識化させようとしているという。

たしかに、そのことは、たとえば中国の戦争映画で、日本軍兵士が「バカヤロウ」などと怒鳴り散らす場面が多く見られることにも伺える。また、廬溝橋にある記念館には、日本軍侵略の様子を伝える写真や展示物が並べられ、中国人ガイドたちは中国人団体客に日本軍の残虐行為を説明し、さらに、館内では終日日本軍の残虐行為をアピールするドキュメントふうの映画が上映されていることから察せられる。私は、その記念館でたまたま三十人くらいの中国人の団体客と一緒にになり、彼らの怒りに満ちたまな

ざしに出会いたじろいでした。こうした状況にあるためか、中国人は日本を非民主的な国だと考えている人が、民主的な国だと思ふ人と同じくらい存在している。

また、都市部に住む中国人一般に対して行った「日本語の好き嫌い」のアンケート調査の結果も、「日本語が嫌い」と答える人が「好き」と答える人を上回っている。このように、中国では日本語の評判は芳しくない。日本語への冷たい視線は、国立国語研究所の調査によっても裏付けられるように、日本という国への視線と軌を一にしている。日本語のイメージをよくしようとするなら、日本という国のイメージを上げねばならないのである。そのためには、どうしたらいいのか？ 日本からの情報をできるだけ多く流してもらえよう働きかけをすることである。同じ中国といっても、台湾では、大陸と違って日本や日本語に対するイメージがすこぶるよい。理由は、大陸と違って国交断絶がなく、常に経済的・文化的・人的交流が盛んになされ続けてきたためと考えられる。台湾にはテレビなどを通じて、日本からの情報が大陸よりもはるかにたくさん流されている。だから、身近に感じてもらえるのである。(宿 2004年)

一方、大陸では、日本の情報はほとんど流されない。北京には日本の政界の大物が北京に訪れているにもかかわらず、北京のテレビで、話題になることすらなかった。日本語教育普及のためには、日本・日本語のイメージアップが、今中国で最も求められていることである。

## 5. 日本語学校のことをどのように知りましたか？

予想の通りで、「インターネットから」を選んだ人が一番多い。次は、新聞や雑誌のメディアから知っている。今の社会の主な情報手段はインターネットである。次に、これについて、もうすこし詳しくみていきたい。

### 5.1 今の社会の主な情報手段はインターネット

私たちの住む社会は情報社会へと大きく変わりつつある。1990年代半ば以降、インターネットや携帯電話の普及に伴い、情報化社会の語、概

念は広く用いられるようになったが、情報化社会への着想は1960年代前半にまで遡るとされるのが普通である。

インターネットはオリンピック以上に国境を越え、世界を平和に導く大きな糸口になっていくと思う。人と人が直接接することなく、文字と画像によって密度の濃いコミュニケーションを図れることがその大きな理由である。これまで数百年かかっても成し得なかった国際社会の障壁が、このインターネットで解消されるような気がしている。

今やインターネットは日本や欧米では社会の隅々にまで浸透しつつあり、インターネットが21世紀の情報伝達の主役になることは、疑う余地もない。今日の中国の経済発展から考えても、「パソコンの普及→インターネットの発達→情報社会への移行」という社会発展は確実に進行するだろうし、現に進行しつつある。

だから、今の人々はほとんどこのようにインターネットの情報から日本語学校のことを知っている。

## 6. 今までの日本語の学習にどう思いますか？

予想と大体一緒で、41.8%の人は「面白かった」を選んだ。しかし、「まあまあ」と思う人も結構多い。人間は言語を習得するとき、学習の目的や個人の意識が一番大切だ。人間の意識を決める主な要素は社会環境というものであると思う。ここで、中国人の日本語学習の動機及び筆者の日本語学習の経験について、もうすこし詳しくみていきたい。

今中国人が日本語を勉強しようと思った動機はなんだろう？ある人は仕事のため、ある人は趣味で、ある人は留学のため、いろいろな動機があると思う。今回の統計から見ると、趣味のためとする人は一番多かった。次は日本の会社へ就職するという理由である。筆者も趣味を持って、日本語の勉強が始まった。

## 7. 中国で日本人に会ったことがありますか？

予想の通りで、77.3%の人は中国で日本人に会ったことがある。中国に

は80年代以前在住の外国人は非常に少なかった。外国人に会ったとき、みんなは「珍しい」という感覚が強かった。しかし、今この状況はもう全然見えない。これは中国の改革開放のお陰である。

市場経済指向の改革開放と経済発展は人々の生活水準だけではなく、中国の総合的な国力も明らかに向上させている。中国とアメリカとの間の国力での相対格差は1980年の5倍から現在（1998年）の3倍まで縮小した。現在の良好な発展の勢いを継続させられた場合、2020年には、中国はいよいよ最盛期を迎えることになる。その場合、中国は世界で最も大きな経済力と貿易量を誇る国家となるだけではなく、世界で最も総合国力の高い国の一つになろう。このことは、国家の統一と中華民族の大きな繁栄を実現するための強固な物質的基盤を与えてくれるのである。

改革開放後、中国に在住の外国人は明らかに増えてきた。外国人にあう時も、昔の「珍しい」という感覚から普通になった。

## 8. 日本人に対する印象はいかがですか？（7番の答え①を選んだ方は記入して下さい）

予想の通りで、「礼儀正しい、真面目」を書いた人が一番多い。この二つの答えを書いた人を合わせて大体半分ぐらいを占めた。これ以外、ぱらつきの見方もある。その他に、筆者は日本人のあいまいな態度という印象も持っている。ここで、これについて述べたい。

### 8.1 あいまいな日本人

今まで私は日本人に好感をいただいていた。日常生活の日本人と接触し、それらの人から少なからぬ知識を習い、日本社会と日本人をよく深く理解した。言葉の交流のなかで、私は日本人と中国人との言語の使い方の習慣の差異を発見した。特に、「YES、NO」について、中国人は率直で、あっさりとするが、日本人はわざと言葉をあいまいにする。それで日本人と会話するとき、相手を信じて誠意をもって、腹藏なく話すことができず、かえって一種の不信、疎遠感が生まれる。中国語にも「心で理解すること



はできても、言葉では伝えられない」の諺があり、意味は「言葉で伝えられなくても、心で理解できる」ということである。ところが、これはよく知り合った友達の間にかぎられ、言葉を使う必要もない場合である。普通は、われわれは短く、簡単に率直に話すことを好む。よしあしについても、はっきりした「YES、NO」の答えを要求する。日本人は逆にあいまいに言葉を使い、よしあしをはっきり言わない。人々は判断ができないほどだ。日本人からはっきりした「YES、NO」をもらうことは稀だ。しかし、「日本人が誇る『みやびやかで礼儀正しい』」ことに対しては、私はかえってそうではない」と率直に言う。

礼儀がゆきとどき、人を困らせないのはもちろん、その学者風でおっとりした気風は、いくつかの場合に、消極的ないし反対の作用を引きおこすはずである。誠意を披瀝し、誠意で対処し、「是」は「是」とし、「否」は「否」とするのが妥当である。こうすると、一時、人を不愉快にさせても、その後、よく考えれば、かえって人に率直の貴さを実感させる。筆者は、つねに考えている。もし日本人が西洋人の率直で豪快な性格をかねれば、民族として万全さをもつことができるのではないかと。

## 9. 日本に対する一番深いイメージは？

予想と違って、2番の「礼儀の国」を選んだ人が一番多い。次は、予想の通りで、1番の「武士道精神」である。ここで、筆者は日本人の「武士道精神」について解釈したい。

### 9.1 日本の「武士道精神」—「切腹」の死生観

日本人には人の死に大きな価値を認める価値観があるが、中国人はどんな立派な死に方をするより生き抜くことを望む。よく中国人の間では「豚になっても生きよ」といわれる。日本人ならさしづめ“豚のような扱いを受けるくらいなら、むしろいさぎよく死ぬ”というほど、死生観がまったく異なる。筆者は日本の友人に、何回も「ハラキリ」という自殺についての説明を求めたが、友人は「あれは単純な自殺ではない。死ぬことを余儀

なくされた者の自殺、あるいは死刑の変形である。」と答えてくれた。どうしても理解できなくて、いろいろな書籍を調べてみた。「切腹」だけでは、致死は困難である。だから、死ぬ前の一種の信仰に似た儀式的作業として、真心、考え、感情などの数々のもの宝庫である「腹」を自分で切り開いて、内部から放生し、解放してこの世に生かしておこうとするのが目的である。これはむろん、日本の武士道精神を正しく伝えるものとはいえないかもしれないが、人類にとって、人命尊重と平和は基本であろう。であるならば、切腹行為はまごうかたなき人間性の否定であり、残虐性と野蛮性以外のなにもものでもあるまい（藤原 1993年）。

「切腹」は日本人の尊厳や勇気を明らかに示すための儀式として、武士の美感を体現している。今の「自殺」というものはそれと完全に逆の概念である。「自殺」は今の日本社会の1つの厳しい社会問題として、人の心を打って深く考えさせる。

今回アンケートの結果の統計からみて、日本の「武士道精神」は中国の民衆に周知されて、いい評価されている。しかし、「切腹」と「自殺」は質的な区別がある。前に言った通りで、「切腹」は美しい式をともなった目的を持った死である。ただの「自殺」じゃない。この点をちゃんと分かれば、日本人の精神世界に対する理解ももっと深かまるであろう。

## 10. もしチャンスがあれば、日本に留学に行きたいですか？

予想の通りで、日本に留学に行きたい人は多かった（83人—75.5%）。行きたくない人は27人（24.5%）がいる。この質問は中国人の日本・日本人観の反映問題である。ここで、筆者は行きたくない理由について中国人としての自分の意見を述べたい。

### 10.1 中国人の日本・日本人観に見る複雑な心情

ひとりの中国人として、筆者は自分が日本人からバカにされ、いじめられたりして悔しい経験を持っている。そんな中、「中華思想」という言葉を耳にした。

中国では、日本人のことについて「小日本」又は「日本鬼子」といった二つの極端な呼び方が定着している。この二つの呼び方は、「勤勉」「善良」などに代表されるプラス・イメージとは対照的に、中国人における日本人の二大マイナス・イメージを表した言葉となっている。前者の「小日本」という言い方は、「領土の狭さ」や「背が低い」という意味以外にも、「いまさら日本に学ぶものはあるもんか」という軽視、ひいては蔑視の気持ちも含まれる。後者の「日本鬼子」という言い方は侵略戦争当時旧日本軍に対する呼び方であり、現在では日本人の侵略に対する憎しみと、今後日本の軍国主義の復活に対する警戒心も込められている。

古代中国は歴史上でも長い間先進文明のひとつとして世界をリードしていた。その結果、古代中国人は次第に世界が中国を中心に、周辺の「四夷」からなっていると考えるようになった。自国文化に対する強烈な矜持と優越感が濃厚な自己中心意識を生み出し、古代中国人は自分のことを「華」「華夏」「中華」と自称すると同時に、周辺地域の民族のことを「蛮夷戎狄」と見下し、二者の関係を「太陽と惑星」の関係にあると確信していた。このような考え方が、いわゆる「中華思想」と呼ばれるものである。こうした思想を背景に、古代中国人は日本という隣国をもその恩恵を受ける存在として、その状況を「正史」と呼ばれる官修史書などに書き記した。例えば、日本列島の状況を系統的に記述した文献である西晋の『三国志・魏志』の中の「倭人伝」には、二千字近くにわたって日本の政治、経済および住民の生活ぶりなどについて詳しく語られている。

しかし日本人の中国・中国人観と同じように、中国人の日本・日本人観も19世紀中期を境に激変する。19世紀中期以降、両国地位の逆転、特に琉球所屬権を巡る戦いと日清戦争における失敗の刺激を受け、中国人は初めて日本を正視しようとした。近代以降旧文明系統の中枢からいきなり新文明系統の辺縁に飛ばされ、新しい世界情勢と各帝国主義列強からの侵略を目の当たりにしたことによって、中国人は昔の自信を少しずつ失い、かつての「中華思想」が瓦解し始めた。やがてその影響は20世紀初頭、数万人規模にのぼる日本留学ブームに火をつける。中国近現代の有名な政治家

および革命家の章炳麟、秋瑾、陳独秀、李大釗、周恩来、廖承志、文学者の魯迅、周作人、郁達夫、郭沫若および画家の傅抱石、劇作家の田漢などはいずれも当時の留学生であった。だが、「中華思想」の影響は一日にしてなくなるものではない。当時の留学生の中にはまだ、「日本には文化というものがなく、あくまでも中国文化のコピーにすぎない」と思う人が圧倒的であった。日本の急速な発展はあくまでも中国より一歩先に西洋の先進文化に触れたからに過ぎないと思込んでいる彼らは、日本認識の先駆者として本当の意味で日本を正視することができなかった。

一方、この時期「蔑視観」は依然として中国人の日本・日本人観を支配していたとは言え、現実的に日々強大になりつつある日本に対して、尊崇と蔑視、ひいては少し脅威に感じる複雑な心境もあった。なお、このような複雑な心境こそ現代中国人の日本観の原点とも言えよう。現代中国人が日本・日本人に対して、近代以来日本帝国主義および軍国主義の略奪と侵略に対する憎しみ以外、漢文化の源流という文化的な優越感とともに、異質な政治体制に対する不安、経済が立ち遅れているというコンプレックスがある。

中国には上のような2つの対立の思想観が存在している。人間にとって、「井の中のかわず」は禁物だ。自己中心だけを一途に追い、外の情報を顧みなければ、その結果は必ず世界に淘汰されてしまう。

## 11. 行きたい理由は？（10番の質問の答え①を選んだ方は記入してください）

予想の通りで、「日本語を学習するため」の理由が一番多かった。次の「自分の目で日本を見たい」と書いた人も多かった。近年、日本語学習者はどんどん増えてきた。筆者はその理由について以下考察した。

### 11.1 日本語学習者の増加と目的

ここ数年の中国における日本語学習者数は増えつつある。日本語能力試験の受験者数は年々増え続け、例えば2001年度の日本語能力試験の受験者

数から見ると香港を含めた中国全体の受験者数が全受験者数の3割近くを占め、日本での受験者数を上回っている。また、北京市内の大型書店の外国語教材売り場では英語の次に日本語のコーナーが多くのスペースを取っており、市内あちこちに「日本語班」（日本語教室）の看板が見られる。これらのことから、日本語熱の高さがうかがえる。80年代の日本の好景気をきっかけに起こった「日本語ブーム」は90年代初めまで続き、その学習の動機や目的は日系企業への就職や日本の先進技術習得といったものがほとんどであった。しかし、90年代末ごろから、若い世代においては日本のドラマ、歌、漫画そしてゲームといった身近なものから日本への興味を持ち、日本語学習を始める者も増えてきた。

また、中国の経済発展と一人っ子政策の影響で、経済的に余裕があり、しかも教育熱心な親たちは、中国国内で希望する大学に入れなかった場合、海外での学位取得を望む場合が多く、その留学先として英語圏の次に選ぶのが日本である。その他、多くの日本の企業が中国沿海部の各都市に進出しているが、最近ではその進出がかなり内陸にまで達し、日中間のやり取りが頻繁かつ緊密となってきたため、技術、知識を持った者が就職後に仕事上の必要から日本語の学習を始めるケースも増えてきている。

だから、「日本語を学習するため」の人も増えてきている。

## 12. 行きたくない理由は？（10番の質問の答え②を選んだ方は記入してください）

予想以外、「日本の生活は好きじゃない」と書いた人が一番多かった。次は予想の通りで、「アメリカやヨーロッパに行きたい」である。なぜアメリカやヨーロッパに行きたい人は多かったか？筆者はこのことについて以下考察した。

### 12.1 英語学習の現状

中国が米国と国交を結び、中国の改革・開放政策がますます進展するにつれて、20世紀の70年代から、人々の生活の中に占める英語の地位がます

ます重要になり始めた。入試、留学、就職、昇進などの必要から、80年代と90年代に、程度の違いこそあれ中国では、英語ブームが巻き起こったことがある。21世紀に入って、中国はオリンピックの招致に成功し、世界貿易機関（WTO）に加盟し、サッカーの世界・カップ（W杯）に中国チームが初めて出場し、上海ではアジア太平洋経済協力会議（APEC）が開催された。こうしたことによって英語は、従来のように単に学生の間だけのものから、社会の各階層に広がり、またどの年齢層でも職業でも、広く学ばれるようになった。いま全中国が、英語の学習について、異常なほどの熱狂の中にある。中国における英語学習人口は約3億人で、全国総人口の約25%を占める。うち大学、高校、中学校、小学校での学習者は、1億人を超える。専門家の予測では、中国の英語学習人口は今後数年で、英語を母国語とする国家の人口合計を超えると見込まれている。これは上海外国語大学でこのほど開催した「第2回中国外国語教学法国際シンポジウム」で明らかにされている。（「人民網日本語版」 2006年3月27日）

## 12.2 中国で英語が盛んである理由

### 12.2.1 外国へ行く夢の達成

英語ブームは、改革・開放政策が始まるとともに起こり始めた。中国が長年制限してきた外国留学政策は緩み始め、1978年に、「文化大革命」が終わってから最初の公費派遣留学生が出国した。81年1月14日には、国務院（政府）が自費による外国留学に関する暫定規定を公布したため、多くの青少年たちの間で、英語学習の一大ブームが引き起こされた。20数年来、中国人の出国熱は絶えず高まっている。留学生の人数も、幾何級数的に伸びている。経済が発達した国々の進んだ科学技術研究の条件や、比較的整った社会的な奨学システム、さらに文化・芸術などの環境は、多くの中国人学生にはきわめて大きな魅力だ。当然のことながら、留学して「外国の学位や証明書」を持って帰ってきた人たちは、ある程度、良い職や高い給料、高い社会的地位を得ることができる。

### 12.2.2 英語は就職の「パスポート」

近年、対外開放が進み、さまざまな制度が国際的な規格に合うようになり、また人事制度が改革されるのにもなって、中国人は英語を学ばなければならなくなった。例えば、毎年冬になって、卒業をまじかに控えた大学生たちがもし政府機関の職に就こうと思うなら、国家公務員試験を受けなければならないし、その試験にはかなり難しい英語の筆記と面接のテストがある。新卒ばかりでなく、仕事に就いてから数年、あるいは十数年にもなる大学卒業生でさえ、人もうらやむ高給や高い地位を次々に棄て、MBAやITなどのいま人気の科目を専攻する大学院修士の試験を受けるのだが、英語の試験が彼らにとって最大の難関になっている。

最近タクシーの運転手でさえ、運転技術の試験の外に、さらに英語の試験に通らなければ運転免許証をもらえない。こうした現象はすべて、英語が当世の就職の「パスポート」になっていることを示している。いろいろな業種の昇格試験でも、厳しい英語のテストに合格しなければならない。昇格すれば給料が高くなり、各種の待遇も高まる。人材獲得競争が激しくなったので、各業種の職員たちは余暇を利用して、自分自身を「充電」するため、英語の学習校に押しかける。

こうした背景の下で、各種各様の英語学習班ができ、多くの人々がまるで蟻のように群がり集まる。主として大学生を対象にして国が制定した英語の等級試験の中で、かなり水準の高い4~6級の試験でさえ、多くの社会人でいっぱいになる。統計では、現在、中国には、正規で大型の英語学習機構はすでに3000を超えている。

以上の理由で、今中国の英語学習熱に伴って、アメリカやヨーロッパに行きたい人も増えてきている。

## 13. 中国人の立場から、日本に一番学ぶものはなんですか？

予想の通りで、1番の「科学技術」を選らんだ人が一番多い。次は、2番の「サービス業と公共秩序の教養」を選んだ人も少なくない。この質問は中国人の日本観の反映である。いったい、中国人の日本観は何だろうか？

筆者はこの問題について、もうすこし詳しくみていきたい。

### 13.1 中国人の日本観

日本と言えば我々にとって決して見知らぬ国ではない。一方で女性的なやさしい細やかさを、もう一方では武士道で言う尚武の精神を持った国。一衣帯水の地理関係と綿々と続いてきた歴史的関係の故に、日中関係には多くの特別な意味がこめられてはいるが、多くの中国人にとって日本は親しみやすい国ではない。中国社会科学院日本所が最近行った日中世論調査によると、中国国民が日本に対して「とても親しみやすい」と「親しみやすい」と答えた人はわずか5.9%であった。「親しめない」と「非常に親しめない」と答えた人は43.4%。「普通」と感じている人が47.6%、残りの3.2%は「よくわからない」という回答であった。この他に中国青少年基金会在が実施した調査によると、日本に対して「良い」と「非常に良い」印象をもっている人が14.5%、「良くない」と「非常に良くない」印象を持っている人が41.5%にもものぼり、残りが「普通」と答えた人で43.9%であった。この二つの調査を通じて、中国人は日本に対してあまりいい印象をもっていないし、日本に親しい感情を示したいとも思っていないことがわかる。

これは確かにこの原因が歴史から来ているという結論をいとも簡単に導き出すことができるのである。日清戦争以来、120年の日中関係は日本が中国を侵略してきた歴史でもあった。ただ1972年から現在までの間、日中両国は初めて真に和解し政治、経済、文化の各方面でさまざまな交流を行って来たと言える。日本との交流、故に中国人の日本への疑念を晴らして親しく付き合うということは、極めて難しいと言わねばならない。特に近年の日本の歴史問題に対する態度、政府高官の靖国神社参拝、教科書問題などは、一層中国人の感情を逆撫でするものであり、これでは中国人が日本に対していい感情を持つのは至難である。

また別の角度から見ると、中国人の日本に対する無理解は、中国と日本の文化の違いからきているとも言える。日本文化は多元性に富んでおり、



長い歴史の中で日本は適時、外来文化を普遍的なものとして受け入れてきた。このため儒教、道教、仏教、キリスト教などの教説は、日本本土の固有文化と融合し、東アジアを代表する文化モデルの一つになるまでの発展を遂げたのである。さらに重要なことは、明治維新以来、西洋に学んで来た経験であり、さらに戦後のアメリカ統治でその文化的薫陶を受け、日本の東洋文化に西洋の色あいを持たせたことである。ディズニーランドやトレンディードラマの中に体现されている西洋文化の匂いが、そのひとつの典型であり、また、浮世絵や歌舞伎、茶道などの文化の中にも、西洋の民主主義と近代的概念とが包含されており、これが歴史と客観的な現実によってもたらされた中日両国の文化の違いである。我々は日中両国の社会制度、文化的背景、両国国民の考え方、精神構造、価値観がすべて違うことを認めることが必要であるにもかかわらず、日本への無理解、行き過ぎた大国意識、民族としての自慰的心理のために、中国人は日本への理解を中途半端に終わらせ、日本について学ぶことを否定してしまう傾向がある。

#### 14. 中国における日本語教育に関する問題点は何だと思いますか？

予想の通りで、「日本人との交流機会が少ない」を選んだ人が多くて、62.7%を占めた。次は、2番の「ネイティブの教師が少ない」の問題点である。筆者は中国における日本語教育に関する問題点について詳しくみにいきたい。

##### 14.1 現状における日本語教育の良い面

周知のように、中国の日本語教育は、教育形式からみると、大学における日本語教育と、中学校、高校における日本語教育と社会人を対象に行う日本語教室の三つに大別できる。大学の日本語教育をさらに大きく分けると、外国語専門教育としての日本語専攻、一般外国語教養、第二外国語（中国における英語は第一外国語で、日本語とロシア語は第二外国語である）としての日本語教育（現在では通称、「大学日語」）に分けられる。ここで中国における日本語教育の現状と問題点を探ってみたい。まず、現状におけ

る日本語教育の良い面から取り上げてみたい。

#### 14.1.1 日本語学科と日本語専攻の学生の増加

大学の日本語専攻といっても実は、その教育形態から言うと、更に四年制大学（国公立と民営）の日本語専攻、専門学校（「通称「大専」、「高職（高等職業技術学院）」）の日本語専攻、大学で実施している全日制の「独学試験」（通称「高自考（高等教育自学考試）」）の単位制教育クラス（すなわち単位の取得を目的として、学歴がない教育形式）の日本語専攻に細分できる。近年、中国の大学増員（いわゆる「拡招」）、大学増加によって、「高自考（高等教育自学考試）」の単位制教育クラスの学生は、減少しつつあるが、四年制大学、「大専」の日本語専攻の学生がかなり増え続けている。2004年年末現在、四年制大学のうち、250の大学が日本語学科を設置したとの統計があった。中国日本語教育研究会の統計によると、「大専」も含めると、すでに385大学に日本語学科が設置している。このように、日本語専攻の学生数、学科数の増加は日本語教育界ではもちろん、いいことである。

#### 14.1.2 日本語、日本文学研究科の増加

日本語学科数と日本語専攻学生数の増加、社会全体の高学歴志向による大学院進学希望者の増加に伴い、日本語、日本文学研究科の急増もめだっている。2000年年末の統計では、修士養成ができる学科三十未満だったが、今は少なくとも60近くに増えている。また、日本語、日本文学研究科の許可が下りず、言語学、文学、対照文学の下位コースとして実際日本語日本文学の修士を養成するところもある。博士コースも増加している。いま、すでに日本語、日本文学博士コースの養成を許可された北京大学、北京外国語大学、上海外国語大学、東北師範大学、吉林大学の五つの大学のほか、外国語、外国文学の博士コースの許可を降りた洛陽外国語学院、南京大学、広東外国語大学でも学内の条件が整えば、養成が国家学位委員会の許可を求めずにできる。特に洛陽外国語学院の場合、すでに条件が整っているという。また、外国語、外国文学の博士コースではなく、文学、比較文学、

世界歴史、言語学の下位学科として、日本文学、日本文化、日本語言語学コースの博士を養成するところもある。たとえば、山東大学、南開大学の日本研究院、北京師範大学などである。こうした要素を入れて統計すれば、日本語、日本文化、日本文学コースの博士を養成する大学も 15 近くになる。これは中国の日本語教育においては、かつて例のないことである。

#### 14.1.3 日本語専攻の指導要綱の実施とそれに伴う 4、8 級試験の実施

2000 年、2001 年、教育部大学外国語専攻教育指導委員会日本語部（日語組）によって編集（修訂）された高学年の指導要綱が出版され、大学における日本語専攻の指導要領が出揃い、全中国における大学の日本語教育を行う場合の基準と評価の目安ができたと言ってもよい。二つの指導要綱の発布にあわせ、2002 年 6 月に、基礎段階の指導要綱に基づく初の全国日本語四級試験を 2 年終わる段階の学生を対象に、全国 60 数校の参加で実施した。八級の試験は、同年 1 2 月実施。これで、大学の英語専攻に負けない四級、八級という毎年 2 回の試験が制度化され、参加者も年々増加している。日本語能力試験との大きな違いは、○×の試験問題だけでなく、作文、翻訳などの項目があり、日本文化、文学、古典日本語の知識に関する問題があるから、日本語の実力と日本文化、文学の水準をよりよく認定できることにより、大学の日本語専攻の科目設置の合理化と教育水準の向上を促進している。

#### 14.1.4 教育手段の改善、教育内容の多様化

教育手段は、IT 技術の発展、コンピューター、インターネットの普及、衛星放送の受信などにより、だいぶ変貌した。マルチメディアの教材開発、CAI の利用、コーパスの整備など、活発な様相を呈している。昨年、四年に一度の国家級教育成果賞に日本語専攻教育として二等賞初入賞の基礎日本語教育改革（天津外国語学院）も、インターネット、CAI 教育の点で高い評価を受けての入賞である。また、教育内容も多様化を見せ、就職などを考え、特に研究志向から、実務志向への転換が多く、ビジネス日本語、

経済日本語、観光日本語、科学技術日本語などの講義の増設が目立っている。つい最近、対外貿易大学の日本語学科を中心に、全国のビジネス日本語研究委員会が発足、ビジネス日本語の教育、研究、教材の開発、専門試験の実施などについて、指導的意見をまとめようとしている。この多様化の傾向は、研究志向の大学から反対されているが、中国の日本語教育の発展からむしろ、よい方向で、高学年指導要綱も「社会のニーズにこたえるように、各大学は、ビジネス、観光、文献検索などの講義を増設してよい」と述べている。

#### 14.1.5 国際交流の拡大

学生海外留学のニーズの拡大と単位互認協定の調印など国際交流の発展などによって、学生の日本派遣も少人数の派遣から、多人数の3+1（三年間中国の大学、一年間日本の協定大学）、2+2（日本と中国の大学のおの二年間）派遣に変わりつつある。日本文化を肌で感じながらの学習は、効果も見せている。

#### 14.1.6 卒業論文の多様化と指導の強化

在学の四年間で、人格の向上と学問の掌握の総仕上げである卒業論文の作成はテーマが伝統の語学、文学から日本文化、社会、経済へと拡張、その指導も重要視されてきた。中でも、中日市民友好クラブと中国日本語教育研究会で実施した全国大学生卒論コンクールは大きな指導的役割を果たしている。

### 14.2 現状における日本語教育の問題点

上記のようにすばらしい現状である一方、少なくとも次のような問題点も存在している。

#### 14.2.1 学生急増と教育水準の質保証の矛盾

学生の急増、学科の急増、研究科の急増により、教員、教育施設、書籍

などが不足し、日本語の教育水準が保証できなくなる。現に、すでに実施した四、八級試験でわかるものだが、90%以上の合格率をもつ大学もあれば、40%未満の大学もある。極端な場合、ある大学の八級の作文の水準と他の大学の四級の水準とはほぼ同じレベルにある。

#### 14.2.2 講義の多様化と主幹講義の矛盾

前に触れたが、学生の就職を考え、実務志向の講義を開設する大学が多くなるが、実用講義の増設により、日本語の主幹講義が大幅に減らされる大学があり、多様化のため、日本語専攻としての基礎能力が弱められることになる。

#### 14.2.3 卒論テーマの多様化と指導の矛盾

卒論の多様化にも同じ問題が起こり、学生は文化、社会、経済など幅広い範囲でテーマを選ぶが、それを指導する教員は日本語、日本文学出身が多く、畑違いと指導を拒否できないケースが多い。

#### 14.2.4 教育資源の不均衡と情報共有の不可

地方の大学と大都市の大学、「大専」と四年制大学と新設の学科とかなり長い歴史を持つ学科との間に、教員水準、資料の多少など、かなりばらつきがあり、情報の共有もできない。

### 14.5 問題点の解決方法

このような問題、矛盾を解決するために、中国教育部は各地域の大学で新設学科を審査し、評価し、さらに主幹講義の規定など制度面での政策研究を行う大学外国語専攻教育指導委員会日本語部（日語組）と定期的な教育情報を交換し、努力している。もう一方、矛盾を解決するために、ネットワークづくりに努める日本語教育研究会もいっそう努力している。このほかに、中国教育部による若手、中堅教員研修、地方大学の日本語学科支援、地域の大学の連携許可なども期待されている（なんでも情報BOX 8）。

15. 将来の中国の日本語教育にとって重要だと思われることは何ですか？  
予想と違って、3番の「日本文化の良い面を取り入れる」を選らんだ人が一番多い。1番の「日本に関する様々な情報」と4番の「日本人との交流を増やす」と思う人の人数が同じ。この問題は14問に似ているが、筆者は日本語教育の現状と課題についてもっと詳しく研究するために、この質問を提出した。以下日本語の現状と課題について多少言及したい。

### 15.1 日本語教育の現状と課題

2007年4月の国際交流基金の報告書によれば、世界の日本語学習者の総数は2,356,745人となっている。この数はその5年前1998年の調査結果と比べると12.1%増加したことになる。そして全学習者の64.8%が初等・中等教育段階の学習者であって、世界の外国語教育の大きな流れを反映している。2,356,745人という学習者の数も将来を考える大切な鍵となる。2,356,745人という学習者数はその調査時点に教育機関に在籍している学習者の数であって、すでに学習を終えた人も加えれば、日本語のわかる人は2,000万人にはのぼるだろうという人もいる。それでも、国際化の激しく進む現在の社会の中での日本語を通じた日本の理解者の総数としては決して充分なものとは言えない。この数の中に、中国の学習者の数は38万7千人で韓国の89万4千人に次いで世界の第2位にあるが、中国の総人口に比較してみると、極端に小さな数値になってしまう。日本側の努力がもっと尽くされてよいはずの実態である。日本の政府もやっと中国の日本語教育に対して対応策の改善に踏み切ったようで、来年度の補正予算に20億の資金が計上されたようだ。

過去の日本語教育の在り方を素直に反省してみると、その内容はかなり言語そのものを目標としたものだったと考えられる。学習者の日本語習得の目的が経済的な活動であったにせよ、日本社会の中に融けこんで生活できるコミュニケーション能力の獲得であったにせよ言語的基礎能力を強調するあまり、ことばそのものに関する知識や技能の習得が目標になりがちであった。

しかし、言語教育の効率性を考え、少しでも短い時間で目標とする領域で言語活動ができるようになることが重要だと考えるならば、日本語教育の内容は今日の実態よりも少しでも目的主義的なものに改めていく姿勢が必要となる。

すでにその流れは、現在の日本語教育の世界の中にも出現しはじめている。ビジネスの世界で活躍しようとする人たちに学習の指標を提示する機能を果たそうとして実施されているジェトロのビジネステストは大学教育の場で必要とされる日本語能力とはまったく異なった日本語のなかみをテストの形で提示しているわけし、日本国内に定住し生活に必要な日本語を習得させるための教育活動も年々生活の場の実態と合わせたものにしてようと努力を積み重ねてきている。

科学技術の領域で日本語を駆使して活躍するであろう中国人日本語学習者の需要は今後も増え続けるにちがわない。科学技術領域での専門家、研究者を育成するためには専門用語をどうやって与えていくかがよく議論の対象になるが、日本語教育と関係づけた立場から考えれば特殊な術語の習得以前に科学技術を支える基礎的な語彙・表現をどのように効率的に与えていくかが重要なものとなるはずだ。

日本語教育の研究は、課題解決型の研究を進めていくためには絶好の領域であると考えられる。中日の研究者の総力を結集して新しい 21 世紀の激しい国際化社会の中で有効な研究成果を生みだしていく歩みが始まることを祈念したい。これは将来の中国における日本語教育にとって重要な課題であろう。

## 5 まとめ

今回のアンケートで、今の中国における日本語学習者の意識を調査した。対象は北京の大学生と内モンゴルの日本語学校の在校生で、合計 110 人いる。中国の大学で開講している日本語科目は、専攻日本語（日本語学科を設置している）と非専攻日本語（日本語講義が開設している）があるが、専攻日本語を設けている大学は 120 校ある（質問 1 参照）。どの大学におい

でも日本語教育のカリキュラムの中心は「総合日本語」という科目で、それは普通「精読」と言われている。精読は全科目の中で最も時間数が多く、また大学の4年間にわたって設けられており、大学専門日本語教育において中核的な役割を果たしている。今北京の大学生はほとんど単位を取るために、選択科目として日本語を学んでいる。一週間の日本語の授業は二回ある。日本語学校は、日本語を母語としない人に対し、日本語を指導することを指すところである。日本語学校の学生はほとんど日本に留学や仕事に行くために、日本語を学んでいる。一週間の日本語の授業は四回か五回ある。この両者の学習の目的は全然違うから、考え方や意識も全然違う。例えば、第3問「日本人が好きですか、嫌いですか？」の質問については日本語学校の学生はほとんど「好き」で、大学生は半分以上「嫌い」である。あと第10問「もしチャンスがあれば、日本に留学に行きたいですか？」の質問については日本語学校の学生は全員「行きたい」で、大学生は半分以上「行きたくない」となっている。アンケート実施中、筆者はこの点を気にした。中国では、「留美的親美、留日的反日」（アメリカに留学した者は親米派になり、日本に留学した者は反日派になる）という言い方がある。これに関する実証的な研究はほとんどないが、日本に対しマイナスイメージを持っている中国人留学生在が存在していることは否定できない。特に日本で厳しい経済状況の中に置かれている就学生や私費留学生は、彼らの日本観には厳しいものがあるようである。あとは、日中戦争の歴史の問題の影響で、日本に対しマイナスイメージを持っている人もたくさん存在している。特に大学生がそうである。今回の調査を通して、大学生の中に「親欧米派」という人の比率は高い。

日本語の学習理由はアンケートの統計からみると、興味のための学習者は一番多かった。しかし、日本語学習の動機は1998年海外日本語教育機関調査結果は以下のようなようである。初等・中等教育では学習者の主な目的は「大学や資格試験の受験準備のため」などである。高等教育では学習者の主な目的は「将来の就職のため」「日本の科学技術に関する知識を得るため」「日本の文化に関する知識をえるため」などである。学校以外の機関では



学習者の主な目的は「今の仕事で日本語を必要とするため」「日本との親善・交流を深めるため」「日本に留学するため」などである。このように、「日本語という言語そのものへの興味」という目的が少ないようである。最近、日本語を学習動機について、「本当は、英語を専門に学びたかった。でも、成績が足りなかつたので、やむなく、大学で日本語を専門にした。」のような声も少なくないようである。今回、筆者のアンケートの結果の統計からみてもこのような通りである。今、中国の日本語教育の特徴は中・上級段階に達する学習者が非常に多いということである。日本語能力試験の基準でみていけば、中等教育あるいは大学の第二外国語教育では3級レベル、第一外国語教育では2級レベル、専門教育では在学中に1級レベルに達しなければならない。また、日本語専攻の学習者は全体的に「話す」能力が極めて高いのに対して、「書く」能力はそれほど高くないという。教師のレベルも全般に高く、大学では日本で学位を取得した者が少なくない。また中等教育の教師は訪日の経験はほとんどないが、日本語で十分意志疎通ができる。その一方、問題点としてよく次の四つが取り上げられている。第一は人口当たりの日本語学習者数は意外に低いこと、第二は初中等教育における日本語教育が減少傾向にあること、第三は中国の西部では、地域の教師のネットワークもなく、日本語教師間の情報交流が不足していること、第四は日本語教師の養成・研修不足の問題が依然として残っていることである。

日本及び日本人に対するイメージはアンケートの統計からみると、プラスのイメージは多かった。回答の中に「礼儀正しい」と「真面目」を書いた人は一番多かった。しかし、マイナスのイメージを持っている人もいる。筆者はこの問題の原因について研究した。その原因は歴史認識である。はっきり言うと、「中華思想」と「日中戦争」の影響である。日中歴史認識については、歴史を辿って両国の相互認識を振り返ってみると、そこには相手のことを平常心で正視することの足りなさを非常に痛感させられる。古代中国で生まれた「中華思想」に由来する日本・日本人に対する蔑視と、それに影響され現在でも日本を素直に見ようとしめない中国。「中華思想」を

受け止めて古代中国をむやみに理想化し、その幻想の崩壊によって中国に対する尊崇が一気に蔑視に変わってしまった日本。両国の親交が数千年にもわたっているにもかかわらず、現実はその歴史の年輪通りにはなっていない。そこには互いに相手を平常心で正視することが欠けていたのではないだろうか。そして、互いのことを正視するという前提基盤が欠けていたからこそ、一時的な影響に左右されやすく、相手に対する感情が激しく揺れるのではないかと考えるのである。だが、人類の歴史を振り返っても、日本と中国の関係の歴史ほどに、年月や時代に翻弄されてきたものはめずらしい。いかなる時代の激動をも乗り越え、今日まで脈々と受け継がれてきた両国両民族の付き合いには歴史的・文化的なつながりの重みがある。数千年にわたる親交の歴史と地理的・文化的接近性が、お互いに対する「一種の親近感」を与え、日中友好の大きな支えを成してきた。確かに、日中両国は古くからの文化的共通性を持っていながら、異なった道を歩んだ近代史の相違が、さらにさまざまな相違を作り出し、それが時には友好関係を傷つけるものともなった。

中国における日本語教育の問題点はアンケートの統計からみると、一番大きい問題は日本人との交流の機会が少ないことである。最近の日本語教育の問題点及び今後の課題はこれまで、中国国内の外国語専攻で養成された学生は、しばしば単一な人材であると言われてきたことである。これに対して、最近の傾向では各大学の日本語学科に言語文化専攻だけではなく、ガイド専攻、国際貿易専攻、旅行管理専攻、科学日本語専攻、情報科学専攻などの専攻も設けられている。そして、他の総合大学の経済学部、コンピューターソフトウェア学部、医学部などと連携して、「共同教育プロジェクト」を実施して、日本語と経済学等の2つの学位を与えるコースも出ている。次は今まで外国語教育では文法を中心にして、詰め込み式教育が一般的であった。最近の外国語教育では聞く、話す、読む、書くという四技能の養成及び、コミュニケーションの能力の養成に目を向けるようになった。また、詰め込み式教育ではなく、考えさせるという教え方も強調されている。教師の研修も増えて、教授法の重視も要求されている。あとはこ

れからの日本語教育は、単に日本語を言語的な観点からのみ教えるのではなく、背景にある日本文化を解説し、日本文化と日本語の一体化も求められている。最近の都市部に住む中国人一般に対して行った「日本語の好き嫌い」のアンケート調査の結果によれば、「日本語が嫌い」と答える人が「好き」と答える人を上回っているという。この状況の中で、日本語教育普及のためには、日本・日本語のイメージアップも、今中国で最も求められていることであろう。

今回のアンケートを通して、筆者は現代中国人学生（日本語学習者）の日本社会および日本語学習に対する意識を調査した。今の中国の日本語学習者たちはいろいろな目的（留学や就職など）を持って、日本社会に対する複雑な気持ち（好きか嫌い）を持って、日本語を勉強していることと中国の日本語教育はまだ完全じゃないことを明らかにした。

#### 参考文献（五十音順）

1. 続三義（1996年7月）「中国における日本語研究」（『解釈と鑑賞』61巻7号） 至文堂出版社
2. 椎名和男（1997年10月）「国外の日本語教育をめぐる情況と展望」（『日本語教育』94号） 日本語教育新聞社
3. 松嶋みどり（1996年10月）「中国北京市の中等教育機関における日本語教育に関するアンケート」（『日本語教育』90号）、上田孝（1995年11月）「海外における日本語教育」（『日本語教育』86号別冊）

日本語教育新聞社

4. 木山登茂子・篠崎撰子（1995年7月）「中国大学レベル非専攻日本語教育への支援を考える」（『日本語学』14巻7号） 明治書院
5. 研究代表者水谷修、新プロ「日本語」総括班、研究班1編（1999年3月）『日本語観国際センサス・単純集計表（暫定速報版）』 文部省科学研究費（創成的基礎研究費）「国際社会における日本語についての総合的研究」

6. 中国日語教学研究会編（1999年）『中国日語教学研究文集』8号 中国日語教学研究会編
7. 宿久高（2003年）「二十一世紀中日関係展望」、『日本学論壇』2003年第3号 日本研究集刊(復旦大学日本研究センター)
8. 国際交流基金日本語国際センター(2002年) 『日本語教育国別事情調査中国日本語事情』国際交流基金日本語国際センター出版
9. 駒谷昇一/編著 川合慧/監修（2004年10月）「情報と社会」 オーム社出版社
10. 宿久高（2004年）「中国における日本語教育の発展と課題」『2004年日本語教育国際研究大会 予稿集 発表1』1-5.
11. 日本研究集刊(復旦大学日本研究センター)（2003年）「第二代改革戦略：積極推進国家制度建設」、『戦略与管理』2003年第2期、戦略与管理雑誌社
12. 藤原正彦著（1993年）「武士道」 新潮新書出版
13. 建築資料研究社編（1989年）「日中建築住宅情報」（1989年6月及び7・8月合併号より） 建築資料研究社出版
14. 国際交流基金編（1998年）「なんでも情報 BOX 8」中国人の日本語学習について中国における日本語学習者の数は数年前（「海外の日本語教育の現状」国際交流基金1998年）の統計調査では24万人であったが、現在では増加の傾向にある。中国では従来より公立の中学校、高校、専門学校、大学において日本語教育がおこなわれてきたが、最近では小学校（大連市）、多くの私立学校でも日本語教育がおこなわれるようになった。また中国の各地で中国人に日本語を教えている日本語教師もかなりの数にのぼる。そこで日本人が中国人に日本語を教えるにあたって注意すべき点をいくつかあげてみたい。